
【テキスト中に現れる記号について】

《 》：ルビ

（例）小野《おの》の小町《こまち》

|：ルビの付く文字列の始まりを特定する記号

（例）そこへ突然 | 黄泉《よみ》の使《つかい》が現れる

[#]：入力者注 主に外字の説明や、傍点の位置の指定

（例）[# 「黄泉の使！ 黄泉の使！」は2行の中央、括弧は2行にわたる波括弧]

—

小野《おの》の小町《こまち》、几帳《きちょう》の陰に草紙《そうし》を読んでいる。そこへ突然 | 黄泉《よみ》の使《つかい》が現れる。黄泉の使は色の黒い若者。しかも耳は兎《うさぎ》の耳である。

小町 （驚きながら）誰です、あなたは？

使 黄泉の使です。

小町 黄泉の使！ ではもうわたしは死ぬのですか？ もうこの世にはいられないのですか？ まあ、少し待って下さい。わたしはまだ二十一です。まだ美しい盛りなのです。どうか命は助けて下さい。

使 いけません。わたしは一天万乗《いってんばんじょう》の君でも容赦《ようしゃ》しない使なのです。

小町 あなたは情《なさけ》を知らないのですか？ わたしが今死んで御覧なさい。深草《ふかくさ》の少将《しょうしょう》はどうするでしょう？ わたしは少将と約束しました。天に在っては比翼《ひよく》の鳥、地に在っては連理《れんり》の枝、 ああ、あの約束を思うだけでも、わたしの胸は張り裂《さ》けるようです。少将はわたしの死んだことを聞けば、きっと歎《なげ》き死《じ》に死んでしまうでしょう。

使 （つまらなそうに）歎き死が出来れば仕合せです。とにかく一度は恋されたのですから、……しかしそんなことはどうでもよろしい。さあ地獄へお伴《とも》しましょう。

小町 いけません。いけません。あなたはまだ知らないのですか？ わたしはただの体ではありません。もう少将の胤《たね》を宿しているのです。わたしが今死ぬとすれば、子供も、 可愛いわたしの子供も一しょに死ななければなりません。（泣きながら）あなたはそれでも好《よ》いと云うのですか？ 闇《やみ》から闇へ子供をやっても、かまわないと云うのですか？

使 （ひるみながら）それはお子さんにはお気の毒です。しかし閻魔王《えんまおう》の命令ですから、どうか一しょに来て下さい。何、地獄も考えるほど、悪いところではありません。昔から名高い美人や才子はたいてい地獄へ行っています。

小町 あなたは鬼《おに》です。羅刹《らせつ》です。わたしが死ねば少将も死にます。少将の胤《たね》の子供も死にます。三人ともみんな死んでしまいます。いえ、そればかりではありません。年とったわたしの父や母もきっと一しょに死んでしまいます。（一層泣き声を立てながら）わたしは黄泉《よみ》の使でも、もう少し優しいと思っていました。

使 （迷惑《めいわく》そうに）わたしはお助け申したいのですが、……

小町 （生き返ったように顔を上げながら）ではどうか助けて下さい。五年でも十年でもかまいません。どうかわたしの寿命《じゅみょう》を延ばして下さい。たった五年、たった十年、 子供さえ成人すれば好《よ》いのです。それでもいけないと云うのですか？

使 さあ、年限はかまわないのですが、 しかしあなたをつれて行かなければ代りが一人入るのです。あなたと同じ年頃の、……

小町 （興奮《こうふん》しながら）では誰でもつれて行って下さい。わたしの召使《めしつか》いの女の中にも、同じ年の女は二三人います。阿漕《あこぎ》でも小松《こまつ》でもかまいません。あなたの気に入ったのをつれて行って下さい。

使 いや、名前もあなたのように小町と云わなければいけないのです。

小町 小町！ 誰か小町と云う人はいなかったかしら。ああ、います。います。（発作的《ほっさてき》に笑い出しながら）玉造《たまつくり》の小町《こまち》と云う人がいます。あの人を代りにつれて行って下さい。

使 年もあなたと同じくらいですか？

小町 ええ、ちょうど同じくらいです。ただ綺麗《きれい》ではありませんが、 器量《きりょう》などはどうでもかまわないのでしょうか？

使 （愛想《あいそ》よく）悪い方が好《よ》いのです。同情しずにはすみすから。

小町 （生き生きと）ではあの人に行き行って貰って下さい。あの中はこの世にいるよりも、地獄に住みたいと云っています。誰も逢《あ》う人がいないものですから。

使 よろしい。その人をつれて行きましょう。ではお子さんを大事にして下さい。（得々《とくとく》と）黄泉の使も情《なさけ》だけは心得ているつもりなのです。

使、突然また消え失せる。

小町 ああ、やっと助かった！ これも日頃信心する神や仏のお計《はか》らいであろう。（手を合せる）八百万《やおよろず》の神々、十方《じっぽう》の諸菩薩《しょぼさつ》、どうかこの嘘《うそ》の剥《は》げませぬように。

二

黄泉《よみ》の使、玉造《たまつくり》の小町《こまち》を背負《せお》いながら、闇穴道《あんけつどう》を歩いて来る。

小町 （金切声《かなきりごえ》を出しながら）どこへ行くのです？ どこへ行くのです？

使 地獄へ行くのです。

小町 地獄へ！ そんなはずはありません。現に昨日《きのう》安倍《あべ》の晴明《せいめい》も寿命《じゅみょう》は八十六と云っていました。

使 それは陰陽師《おんみょうじ》の嘘でしょう。

小町 いいえ、嘘ではありません。安倍の晴明の云うことは何でもちゃんと当るのです。あなたこそ嘘をついているのでしょうか。そら、返事に困っているではありませんか？

使 （独白《どくはく》）どうもおれは正直すぎるようだ。

小町 まだ強情《ごうじょう》を張るつもりなのですか？ さあ、正直に白状《はくじょう》しておしまいなさい。

使 実はあなたにはお気の毒ですが、……

小町 そんなことだろうと思っていました。「お気の毒ですが、」どうしたのです？

使 あなたは小野《おの》の小町《こまち》の代りに地獄へ墮《お》ちることになったのです。

小町 小野の小町の代りに！ それはまた一体どうしたんです？

使 あの中は今 | 身持《みも》ちだそうです。深草《ふかくさ》の少将《しょうしょう》の胤《たね》とかを、……

小町 （憤然《ふんぜん》と）それをほんとうだと思ったのですか？ 嘘ですよ。あなた！ 少将は今でもあの中のとこへ百夜通《ももよがよ》いをしているくらいですもの。少将の胤を宿すのはおろか、逢《あ》ったことさえ一度もありはしません。嘘も、嘘も、真赤な嘘ですよ！

使 真赤な嘘？ そんなことはまさかないでしょう。

小町 では誰にでも聞いて御覧なさい。深草の少将の百夜通いと云えば、下司《げす》の子供でも知っているはずですよ。それをあなたは嘘とも思わずに、……あの中の人にわたしの命を、……ひどい。ひどい。ひどい。（泣き始める）

使 泣いてはいけません。泣くことは何もないのですよ。（背中から玉造の小町を下《おろ》す）あなたは始終この世よりも、地獄に住みたがっていたでしょう。して見ればわたしの欺《だま》されたのは、反《かえ》って仕合せではありませんか？

小町 （嚙《か》みつきそうに）誰がそんなことを云ったのです？

使 （怯《お》ず怯《お》ず）やっぱりさっき小野の小町が、……

小町 まあ、何と云う図々《ずうずう》しい人だ！ 嘘つき！ 九尾《きゅうび》の狐！ 男たらし！ 騙《かた》り！ 尼天狗《あまてんぐ》！ おひきずり！ もうもうもう、今度顔を合せたが最後、きっと喉笛《のどぶえ》に嚙《か》みついてやるから。口惜《くや》しい。口惜しい。口惜しい。（黄泉《よみ》の使をこづきまわす）

使 まあ、待って下さい。わたしは何も知らなかったのですから、 まあ、この手をゆるめて下さい。

小町 一体あなたが莫迦《ばか》ではありませんか？ そんな嘘を真《ま》に受けるとは、……

使 しかし誰でも真に受けますよ。……あなたは何か小野の小町に恨《うら》まれることでもあるのですか？

小町 （妙に微笑する）あるような、ないような、……まあ、あるのかも知れません。

使 するとその恨まれることと云うのは？

小町 （輕蔑するように）お互《たがい》に女ではありませんか？

使 なるほど、美しい同士でしたっけ。

小町 あら、お世辞《せじ》などはおよしなさい。
使 お世辞ではありませんよ。ほんとうに美しいと思っているのです。いや、口には云われないくらい美しい
と思っているのです。
小町 まあ、あんな嬉しがらせばっかり！ あなたこそ黄泉には似合わない、美しいかたではありませんか？
使 こんな色の黒い男がですか？
小町 黒い方《ほう》が立派《りっぱ》ですよ。男らしい気がしますもの。
使 しかしこの耳は気味が悪いでしょう。
小町 あら、可愛いではありませんか？ ちょっとわたしに触《さわ》らして下さい。わたしは兎《うさぎ》
が大好きなのですから。（使の兎の耳を玩弄《おもちゃ》にする）もっとこっちへいらっしゃい。何だかわたし
はあなたのためなら、死んでも好《い》いような気がしますよ。
使 （小町を抱《だ》きながら）ほんとうですか？
小町 （半ば眼を閉じたまま）ほんとうならば？
使 こうするのです。（接吻《せつぶん》しようとする）
小町 （突きのける）いけません。
使 では、……では嘘なのですか？
小町 いいえ、嘘ではありません。ただあなたが本気かどうか、それさえわかれば好《よ》いのです。
使 では何でも云いつけて下さい。あなたの欲しいものは何ですか？ 火鼠《ひねずみ》の裘《かわごろも》
ですか、蓬萊《ほうらい》の玉の枝ですか、それとも燕《つばめ》の子安貝《こやすがい》ですか？
小町 まあ、お待ちなさい。わたしのお願はこれだけです。どうかわたしを生かして下さい。その代りに
小野の小町を、あの憎《にく》らしい小野の小町を、わたしの代りにつれて行って下さい。
使 そんなことだけで好《よ》いのですか？ よろしい。あなたの云う通りにします。
小町 きっとですね？ まあ、嬉しい。きっとならば、……（使を引き寄せる）
使 ああ、わたしこそ死んでしまいそうです。

三

大勢《おおぜい》の神将《しんしょう》、あるいは戟《ほこ》を執《と》り、あるいは剣《けん》を提《ひっ
さ》げ、小野《おの》の小町《こまち》の屋根を護《まも》っている。そこへ黄泉《よみ》の使、蹠踉《そうろ
う》と空へ現れる。
神将 誰だ、貴様は？
使 わたしは黄泉の使です。どうかそこを通して下さい。
神将 通すことはならぬ。
使 わたしは小町をつれに来たのです。
神将 小町を渡すことはなおさらならぬ。
使 なおさらならぬ？ あなたがたは一体何ものですか？
神将 我々は天《あめ》が下《した》の陰陽師《おんみょうじ》、安倍《あべ》の晴明《せいめい》の加持《か
じ》により、小町を守護する三十番神《さんじゅうばんじん》じゃ。
使 三十番神！ あなたがたはあの嘘つきを、あの男たらしを守護するのですか？
神将 黙れ！ か弱い女をいじめるばかりか、悪名《あくみょう》を着せるとは怪《け》しからぬやつじゃ。
使 何が悪名です？ 小町はほんとうに、嘘つきの男たらしではありませんか？
神将 まだ云うな。よしよし、云うならば云って見ろ。その耳を二つとも削《そ》いでしまうぞ。
使 しかし小町は現にわたしを……
神将 （憤然《ふんぜん》と）この戟《ほこ》を食《く》らって往生《おうじょう》しろ！（使に飛びかか
る）
使 助けてくれえ！（消え失せる）

四

数十年 | 後《ご》、老いたる女 | 乞食《こじき》二人、枯芒《かれすすき》の原に話している。一人は小野の
小町、他の一人は玉造《たまつくり》の小町。
小野の小町 苦しい日ばかり続きますね。
玉造の小町 こんな苦しい思いをするより、死んだ方がましかも知れません。
小野の小町 （独り語《ごと》のように）あの時に死ねば好《よ》かったのです。黄泉《よみ》の使に会った
時に、……
玉造の小町 おや、あなたもお会いになったのですか？

小野の小町 （疑《うたがい》深そうに）あなたもと仰有《おっしゃ》るのは？ あなたこそお会いになったのですか？

玉造の小町 （冷やかに）いいえ、わたしは会いません。

小野の小町 わたしの会ったのも唐《から》の使です。

しばらくの間《あいだ》沈黙。黄泉の使、忙《いそが》しそうに通りがかる。

玉造の小町

小野の小町 黄泉の使！ 黄泉の使！ [# 「黄泉の使！ 黄泉の使！」は2行の中央、括弧は2行にわたる波括弧]

黄泉の使 誰です、わたしを呼びとめたのは？

玉造の小町 （小野の小町に）あなたは黄泉の使を御存知ではありませんか？

小野の小町 （玉造の小町に）あなたも知らないとはおっしゃれますまい。（黄泉の使に）このかたは玉造の小町です。あなたはとうに御存知でしょう。

玉造の小町 このかたは小野の小町です。やっぱりあなたのお馴染《なじみ》でしょう。

使 何、玉造の小町に小野の小町！ あなたがたが、 骨と皮ばかりの女乞食が！

小野の小町 どうせ骨と皮ばかりの女乞食ですよ。

玉造の小町 わたしに抱きついたのを忘れたのですか？

使 まあ、そう腹を立てずに下さい。あんまり変っていたものですから、つい口をに《すべ》らせたのです。……時にわたしを呼びとめたのは、何か用でもあるのですか？

小野の小町 ありますとも。ありますとも。どうか黄泉へつれて行って下さい。

玉造の小町 わたしもーしょにつれて行って下さい。

使 黄泉へつれて行け？ 冗談《じょうだん》を云ってはいけません。またわたしを欺《だま》すのでしょうか。

玉造の小町 あら、欺しなどするものですか！

小野の小町 ほんとうにどうかつれて行って下さい。

使 あなたがたを！（首を振りながら）どうもわたしには受け合われません。またひどい目に会うのは嫌《いや》ですから、誰かほかのものにお頼みなさい。

小野の小町 どうかわたしを憐《あわ》れんで下さい。あなたも情《なさけ》は知っているはずです。

玉造の小町 そんなことを云わずに、つれて行って下さい。きっとあなたの妻になりますから。

使 駄目《だめ》です。駄目です。あなたがたにかかり合うと いや、あなたがたばかりではない、女と云うやつにかかり合うと、どんな目に会うかわかりません。あなたがたは虎《とら》よりも強い。内心 | 如夜叉《にょしゃ》の譬《たとえ》通りです。第一あなたがたの涙の前には、誰でも意気地《いくじ》がなくなってしまう。（小野の小町に）あなたの涙などは凄《すご》いものですよ。

小野の小町 嘘です。嘘です。あなたはわたしの涙などに動かされたことはありません。

使 （耳にもかけずに）第二にあなたがたは肌身《はだみ》さえ任《まか》せば、どんなことでも出来ないことはない。（玉造の小町に）あなたはその手を使ったのです。

玉造の小町 卑《いや》しいことを云うのはおよしなさい。あなたこそ恋を知らないのです。

使 （やはり無頓着《むとんじゃく》に）第三に、これが一番恐ろしいのですが、第三に世の中は神代《かみよ》以来、すっかり女に欺《だま》されている。女と云えば弱いもの、優しいものと思いこんでいる。ひどい目に会わずのはいつも男、会わされるのはいつも女、 そうよりほかに考えない。その癖ほんとは女のために、始終《しじゅう》男が悩まされている。（小野の小町に）三十番神《さんじゅうばんじん》を御覧なさい。わたしばかり悪ものにしていたでしょう。

小野の小町 神仏《かみほとけ》の悪口《わるぐち》はおよしなさい。

使 いや、わたしには神仏よりも、もっとあなたがたが恐ろしいのです。あなたがたは男の心も体も、自由自在に弄《もてあそ》ぶことが出来る。その上万一手に余れば、世の中の加勢《かせい》も借りることが出来る。このくらい強いものはありますまい。またほんとうにあなたがたは日本国中至るところに、あなたがたの餌食《えじき》になった男の屍骸《しがい》をまき散らしています。わたしはまず何よりも先へ、あなたがたの爪にかからないように、用心しなければなりません。

小野の小町 （玉造の小町に）まあ、何と云う人聞きの悪い、手前勝手な理窟《りくつ》でしょう。

玉造の小町 （小野の小町に）ほんとうに男のわがままには呆《あき》れ返ってしまいます。（黄泉《よみ》の使に）女こそ男の餌食《えじき》です。いいえ、あなたが何と云っても、男の餌食に違いありません。昔も男の餌食でした。今も男の餌食です。将来も男の、……

使 （急に晴れ晴れと）将来は男に有望です。女の太政大臣《だいじょうだいじん》、女の検非違使《けびいし》、女の閻魔王《えんまおう》、女の三十番神、 そういうものが出来るとすれば、男は少し助かるでしょう。第一に女は男狩りのほかにも、仕業《しば》えのある仕事が出来ますから。第二に女の世の中は今の男の世の中ほど、女に甘いはずはありませんから。

小野の小町 あなたはそんなにわたしたちを憎《にく》いと思っているのですか？
玉造の小町 お憎みなさい。お憎みなさい。思い切ってお憎みなさい。
使（憂鬱《ゆううつ》に）ところが憎み切れないのです。もし憎み切れるとすれば、もっと仕合せになっているでしょう。（突然また凱歌《がいか》を挙げるように）しかし今は大丈夫です。あなたがたは昔のあなたがたではない。骨と皮ばかりの女乞食です。あなたがたの爪にはかかりません。
玉造の小町 ええ、もうどこへでも行ってしまえ！
小野の小町 まあ、そんなことを云わずに、……これ、この通り拝みますから。
使 いけません。ではさようなら。（枯芒《かれすすき》の中に消える）
小野の小町 どうしましょう？
玉造の小町 どうしましょう？
二人ともそこへ泣き伏してしまう。
[# 地から 1 字上げ]（大正十二年二月）

底本：「芥川龍之介全集5」ちくま文庫、筑摩書房
1987（昭和62）年2月24日第1刷発行
1995（平成7）年4月10日第6刷発行
底本の親本：「筑摩全集類聚版芥川龍之介全集」筑摩書房
1971（昭和46）年3月～1971（昭和46）年11月

入力：j.utiyama
校正：かとうかおり
1999年1月10日公開
2004年3月10日修正
青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。